

〈ニュースリリース〉

サントリーホールディングス株式会社
サントリービバレッジ&フード株式会社

経済産業省
「サーキュラーエコノミーアクション Week」に賛同



サントリーグループは、経済産業省が10月の3R推進月間に合わせて実施する生活者参加型の取り組み「サーキュラーエコノミーアクション Week」に賛同します。当グループが容器包装の資源循環取り組みにおいて最も重要と位置付ける「ボトル to ボトル」水平リサイクル※1のさらなる推進に向け、期間中、WEBサイトやSNSを通じてペットボトル分別啓発動画やクイズなどのコンテンツを発信します。生活者の皆様に、日常の中で実践できる循環型消費行動への理解を深めていただくことで、循環経済の実現に貢献していきます。

※1 使用済み製品を原料として同一種類の製品につくりかえるリサイクルのこと

サントリーグループは、自然と水の恵みに生かされる企業として、「人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、『人間の生命（いのち）の輝き』をめざす。」をパーパスとし、創業以来、持続可能な社会の実現を目指してきました。容器包装の資源循環では、「ボトル to ボトル」水平リサイクルを最重要施策と位置付け、国内清涼飲料業界で初となるリサイクル素材100%ペットボトルの導入※2や、「F to P®ダイレクトリサイクル技術※3」の開発※4などを進めてきました。また、200を超える自治体や企業等と連携し、「ボトル to ボトル」水平リサイクルの実用化を推進しています。国内清涼飲料事業では、業界として2030年に「ボトル to ボトル」水平リサイクル率50%を目標とする中、100%リサイクルペットボトル比率が既に半数を超え、2025年のサステナブル素材（リサイクル素材+植物由来素材等）使用率は重量ベースで62%に達しています。

※2 メカニカルリサイクルとして

※3 サントリーホールディングス（株）と協栄産業（株）で日本において商標登録済み

※4 協栄産業（株）など4社で共同開発

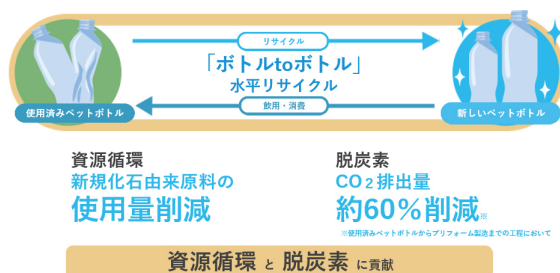
今後も、「プラスチック基本方針」に基づき、「グローバルで使用するペットボトルをリサイクル素材あるいは植物由来素材等へ切り替え、化石由来原料の新規使用をゼロにする」という目標に向け、取り組みを推進していきます。

以 上

〈ご参考〉サントリーグループのペットボトル資源循環に関する取り組み

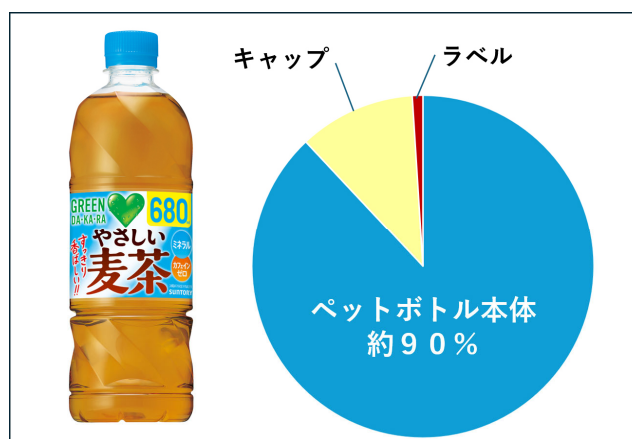
●「ボトル to ボトル」水平リサイクルの取り組み意義について

「ボトルtoボトル」水平リサイクルの意義



ペットボトルはきれいに分別し、「ボトル to ボトル」水平リサイクルを行うことで、新たな化石由来原料を使用せず、何度も資源として循環させることができます。また、新たな化石由来原料からペットボトルを製造する場合と比較して、CO₂排出量を約60%削減^{※5}できるため、その意義は大きいと考えています。

※5 使用済みペットボトルからプリフォーム製造までの工程において



（一例）ペットボトル容器1本あたりの重量比

ペットボトル飲料の容器包装は、ペットボトル本体・キャップ・ラベルで構成されていますが、その重量の約90%をペットボトル本体が占めています。当グループではキャップやラベルの環境負荷低減にも取り組んでいますが、ペットボトル本体の「ボトル to ボトル」水平リサイクルを推進することが、最も大きな環境負荷低減効果につながると考えています。

●ペットボトルの分別に関する啓発活動について

国内における「ボトル to ボトル」水平リサイクルは、生活者の皆様による適切な分別によってさらに推し進めることができます。ご家庭の外でもペットボトルのきれいな分別方法を知っていただき、水平リサイクルをさらに推進するため、飲み終えた後の分別行動に着目した企業広告（TV-CM・WEB動画）を展開するとともに、小中学校や商業施設等での出張授業などの啓発活動を継続的に

実施しています。また、2022年には「ペットボトルポスト」イベントを開催し、「ペットボトルはゴミではなく資源」「回収ボックスはペットボトルのごみ箱ではなくリサイクルボックスであり、次の方にまたペットボトルとして届けるためのポストのようなもの」というメッセージを訴求しました。このように「外でもきれいな分別」をテーマに、生活者への啓発コミュニケーションを積極的に展開しています。今年も10月20日「リサイクルの日」に向けて、新たな啓発コミュニケーションを実施する予定です。

●植物由来素材等バイオマスペットボトル開発・実用化の取り組み



リサイクル素材の不足分を補う役割として、これまでも植物由来素材等からなるバイオマスペットボトルの開発・実用化にも取り組んできました。2013年から「サントリー天然水」550mlに30%植物由来素材ペットボトルを導入し、2023年には同2Lにも全数導入しています。また、2024年には使用済み食用油由来のバイオパラキシレンを70%使用^{※6}したペットボトルを一部商品に導入しました。今後も技術開発を進め、100%バイオマス由来素材ペットボトルの実用化を目指します。

※6 マスバランス方式。特性の異なる原料が混合される場合に、ある特性を持つ原料の投入量に応じて生産する製品の一部にその特性を割り当てる手法。

▼サントリーグループのサステナビリティ

<https://www.suntory.co.jp/sustainability/>

▼サントリーグループの「資源循環」

https://www.suntory.co.jp/sustainability/env_circular/

水と生きる SUNTORY

自然と水の恵みに生かされる企業として、貴重な水資源を守ること。
さまざまな企業活動を通じて社会に潤いをもたらし、社会にとっての水であること。
社員一人ひとりが水のように自在にしなやかに挑戦できる会社であること。
「人間の生命（いのち）の輝き」をめざす想いを、「水」に託して伝えるメッセージです。